

海外への発信

< JICAを通じた連携 >

国連国際防災戦略、世界銀行防災グローバル・ファシリティ
中国：四川大學・香港理工大學
災害復興管理学院
インドネシア：Tsunami and Disaster Mitigation Research Center, Syiah Kuala University

震災復興学の確立

「支援知」を研究に活かし、震災復興学を通じて世界の平和と未来の地球に貢献することを目的とする

国内への発信

< 福島大学連携協定機関 >

エスエス製薬、日本原子力研究開発機構、広島大学、長崎大学、双葉郡八町村、放射線医学総合研究所、産業技術総合研究所

< FURE連携協力機関 >

野村證券、京都大学大学院医学研究科、法政大学サステイナビリティ研究所

多様な「災害」に対応

巨大地震、大型台風、火山災害、紛争、日本以外の国での原子力災害etc.

地域を取り戻す

生きるための基盤
(生業・暮らし)

事前復興

「減災」への取組・防災教育etc.
ハードではなくソフトでの災害予防

研究代表者 山川充夫(福島大学特命教授)

直接経費1億6560万円(5年間) + 間接経費4968万円(5年間)

< 産業復興支援チーム >

L 高木 亨(分・FURE)
初澤敏生(分・人間)
藤本典嗣(分・理工)
山田耕生(分・他大学)

< 地域計画チーム >

L 吉田 樹(分・経済)
石井秀樹(分・FURE)
大平佳男(分・FURE)
中井勝己(分・行政)

< 地域コミュニティチーム >

L 佐藤彰彦(分・FURE)
開沼 博(分・FURE)
松尾浩一郎(分・他大学)
博士研究員(採用予定)

< 災害予測・防災チーム >

L 中村洋介(分・人間)
三村 悟(分・FURE)
大瀬健嗣(分・FURE)
北山 響(分・FURE)

震災復興学の体系化 国際発信

・L(チームリーダー)・分(研究分担者)・FURE(うつくしまふくしま未来支援センター)・理工(共生システム理工学類)・経済(経済経営学類)・行政(行政政策学類)・人間(人間発達文化学類)

震災復興学確立に向けての研究ステップ

震災からこれまでの実態を明らかにする

旧小高町他
パネル調査

県民2,000人
ヒアリング調査

第1・2・3次
産業調査

災害・放射線調査
(測定・分析)

国内外での「災害」への経験・対応を明らかにする

福島県内等での事例
避難類型・意志決定・変化

国外での事例調査
中国・インドネシア・欧州など

復興プロセスのモデル化をおこなう

地理的条件・被災状況に
応じた産業復興モデル

災害からの
復興モデル

放射能汚染地域での
農業再開モデル

情報共有化の拠点づくり・教育プログラムを作成する

ISDR・GFDRRとの連携
による国際シンポジウ
ム

防災・放射線教
育プログラム

国内外の博物館
等への情報提供

フクシマの災害復興の
情報拠点としての資料
整備

復旧・復興プロセスの体系化 = 「震災復興学」として世界に発信
地球の未来 : Future Earthへ